

役員人事

産総研では、次のとおり理事を任命しました。
(2003年7月11日付)

こばやし のりあき

小林 憲明 (理事・業務推進本部長)



昭和28年生まれ。
東京大学経済学部卒。

●主な略歴

昭和52年通商産業省入省、資源エネルギー庁石炭部鉱害課長、宮崎県企画調査部長、通商産業省生活産業局繊維課長、日本貿易振興会デュッセルドルフセンター所長を歴任。

第2回産学官連携推進会議

2003年6月7日、8日の2日間、国立京都国際会館において第2回産学官連携推進会議が開催され、4,000人を超える参加がありました。

この会議は、産学官連携サミット、地域産学官連携サミットおよび2002年の第1回産学官連携推進会議の成果を踏まえ、産学官連携の推進を担う第一線のリーダーや実務経験者等を対象に、具体的な課題について研究協議、情報交換、対話・交流・展示等の機会を設けることにより産学官連携の実質かつ着実な進展を図ることを目的としたものです。

開会式では小泉内閣総理大臣からのメッセージがビデオで紹介され、続いて細田科学技術政策担当大臣、遠山文部科学大臣、奥田日本経済団体連合会会長、そして日本学術会議会長を務める当所吉川理事長が挨拶を行いました。午後からは4テーマによる分科会が行われ、当所の後藤産学官連携部門長がベンチャー支援分科会のパネリストとして参加しました。

2日目には産学官連携の成功事例についての発表会および表彰式が行われ、当所情報処理研究部門の平野聡主任研究員が「[HORB]による分散管理環境の開発」で平成15年度「産学官連携功労者表彰・日本経済団体連合会会長賞」を受賞しました (http://www.aist.go.jp/aist_j/topics/to2003/to20030609/to20030609.html)。



先端SoC共同研究センター竣工記念式典

「先端 SoC 共同研究センター」が、2003年3月末、日本電気株式会社相模原事業場の敷地内に竣工し、同施設において、2003年6月23日に竣工記念式典が挙行されました。

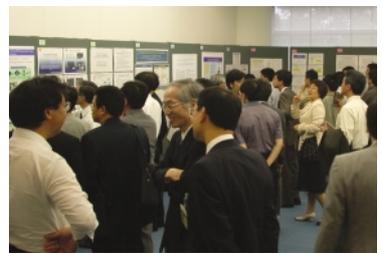


式典は、吉川理事長の挨拶に続いて、ご来賓の中村経済産業省産業技術環境局長、和田内閣府官房審議官、戸坂社団法人電子情報技術産業協会半導体幹部会委員長による挨拶、伊藤先端SoC連携研究体長による施設および研究概要の説明が行われました。

産総研は、株式会社先端エスオーシー基盤技術開発 (ASPLA) と共同で「先端 SoC 連携研究体」を構成し、携帯電話・情報家電等で求められる高付加価値LSI (システムオンチップ (SoC)) の飛躍的な生産性向上のために、ASPLA と共同研究契約を締結し、同センターにおいて、300mm ウェハを用いた 90nm 設計基準以降の SoC の設計・製造それぞれの共通基盤分野における標準化の共同研究を実施します。設計・製造プロセスを高い互換性を持つように標準化し、個々の企業の持つ技術の相互活用を容易にすることによって、各社が独自に設計した半導体を他社の製造工場でも生産できるようになることを目指しています。

基礎素材研究部門 国際シンポジウム 2003 開催

2003年6月24日、基礎素材研究部門では名古屋国際会議場において「AIST-ISEM International Symposium 2003」を開催しました。



このシンポジウムは、当研究部門の研究成果を発信するとともに、著名な研究者を招待し、最新の研究成果について情報を収集するためのものです。招待講演は7件 (うち外国人による講演3件)、当研究部門研究者の研究発表は8件で、これらの招待講演はそれぞれ研究発表と関連付けられ、これによって世界的な研究成果と基礎素材研究部門における研究の位置付けを明確にすることができました。また、昼食後にはポスターセッション (17件) があり、活発な質疑と意見交換が行われました。

<http://unit.aist.go.jp/isem/topix/sympo/sympo.html>

米国バイオ産業展示会「BIO2003 ANNUAL CONVENTION」

全米バイオ産業協会 (BIO) が主催する世界最大のバイオ産業展示会「BIO2003 ANNUAL CONVENTION」が2003年6月22～25日、米国ワシントンDCの新設されたワシントン・コンベンションセンターで開催されました。出展約1,000社、入場者16,000人、昼のセミナーの時間にはブッシュ大統領のスピーチもある盛大な催しでした。

産総研は、ジェトロ (日本貿易振興会) の日本パビリオンの中にバイオベンチャー企業6社とともに参加しました。産総研ブースでは、バイオ分野での研究概要とベンチャー企業を紹介したビデオの上映と技術移転をめざす研究成果の紹介などを行いました。また、産総研ブースおよび日本パビリオンでは多くの来訪者に産総研の研究概要を伝えることができ、注目された技術について今後のコンタクトの約束を得ることもできました。



第1回 AIST・「産学官」交流フォーラム ～医療福祉産業に向けて～

2003年6月26日、産総研産学官連携部門は第1回 AIST・「産学官」交流フォーラムを臨海副都心センターにおいて開催しました。このフォーラムは産総研の研究成果を産業界に広く紹介・移転し、人的ネットワークを構築することを目的として、産総研の研究分野毎に今年度は合計9回開催されます。第1回は人間工学・福祉工学・医工学の分野紹介で、企業を中心に約100名の参加者がありました。

中村吉宏産学官連携コーディネータの開会挨拶の後、山根隆志人間福祉医工学研究部門副部門長から分野の動向と AIST の戦略について説明がありました。続いて、産総研職員による5件の研究発表、その発表を含めて11件のパネル展示があり、参加企業との熱心な意見交換がなされました。最後に東京大学大学院情報理工学系研究科の土肥健純教授による21世紀の医療福祉工学の役割について特別講演が行われました。

問い合わせ先

AIST・「産学官」交流フォーラム事務局
TEL 06-6763-3242 FAX 06-6763-3221
E-mail aist-forum@gbcj.com
URL <http://www.gbcj.com/aist-forum/>

石原舜三特別顧問 ロシア科学アカデミー一会員に選出

2003年5月22日、ロシア科学アカデミーの総会において、産総研石原舜三特別顧問が、永年にわたる鉱床学・花崗岩岩石学の分野における国際的功績により、同アカデミーの会員に選出されました。現在、ロシア科学アカデミーの在外会員は244名を数え、このうち我が国からは今回選ばれた野依良治、小柴昌俊、石原舜三各氏を含め、13名が選出されています。

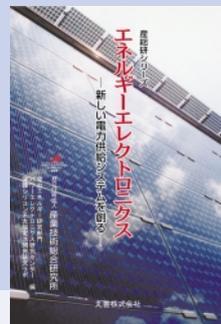


石原顧問の業績の中でも花崗岩系列の提唱は、世界の花崗岩研究に大きな影響を与えた研究として、日本から世界に向けて発信された画期的な成果のひとつに数えられます。石原顧問による磁鉄鉱系列とチタン鉄鉱系列という花崗岩類の分類法は、基本的には花崗岩質マグマの酸化・還元状態を反映し、それは含有する磁鉄鉱量の違いに表れるため、岩石の帯磁率測定によって野外でも簡単に判別できるという利点があり、分類の成因的・記載的明確さは、日本列島のみならず、環太平洋造山帯の花崗岩類の研究にも広く影響を与え、ご本人も南米チリや中国、マレーシアなどの地質学者と共同して花崗岩系列の提唱を検証する研究を続けて来ました。

石原顧問は、2001年4月より産総研特別顧問に就任された後も多数の論文を発表し続け、後進への指導を続けています。

AIST BOOKS 第5巻 「エネルギーエレクトロニクス」刊行

産総研で行われている研究の意義や将来性、そして課題や産業界との連携について紹介している「産総研シリーズ」その第5巻が刊行されました。今回は、産総研のエネルギー系研究ユニットのうち、クリーンな分散電源の開発とそれを使いこなすための新しい電力ネットワークの構築をキーワードに密接に連携している電力エネルギー研究部門、パワーエレクトロニクス研究センター、薄膜シリコン系太陽電池開発研究ラボを紹介しています。



■産総研シリーズ 第5巻 エネルギーエレクトロニクス — 新しい電力供給システムを創る —

独立行政法人産業技術総合研究所
電力エネルギー研究部門/パワーエレクトロニクス研究センター/
薄膜シリコン系太陽電池開発研究ラボ 編
丸善(株)発行、322頁、ISBN 4-621-07286-2
本体価格 1,500円+税
全国有名書店でお買い求めください。